

生涯学習マナビ通信 No.12

なとりの魅力創生課出前講座「広報なとりができるまで」から、

～読まれる「広報紙」の作り方への取り組み～

今回は、「なとりの魅力創生課」の出前講座について、紙面づくりのポイントやテクニクなど、いろいろと質問しましたので、文章作成や発行紙づくりの参考にしてください♪

Q 生学：広報ができるまでの大まかなプロセス（流れ）を教えてください。

- 広報：1.入稿 各課から提出された原稿を添削し、カテゴリー分けをして印刷業者へ入稿します。
 2.校正 ゲラ刷りをもとに各課と広報係で校正。3回繰り返し、誤字脱字などを修正します。
 3.校了 広報係で最終チェックを行い、内容に誤りが無いことを確認し、校了します。
 4.印刷・製本 印刷業者にて印刷・製本作業が行われます。
 5.配布 配布業者へ納品され、市民や事業者等の皆さんへ順次配布されます。

Q 生学：広報の紙面づくりにおいては、どういうところが大変ですか？

広報：1つは内容に誤りが無いようにすることです。広報紙は市民や事業者等の皆さんにとって重要な情報源です。誤った情報を届けることで市民や事業者等の皆さんに不利益が生じないように、一字一句慎重にチェックを重ねています。

もう1つは「伝わる」紙面を作ることです。さまざまな制度やイベントなどの情報を広くお知らせすることが広報紙の役割です。しかし、手に取り、読んで、理解し、行動してもらわなければ、情報が届いていないのと同じです。単に情報を掲載するだけの「伝える」広報から、読み手の行動を促す「伝わる」広報へ。この工夫がとても難しいと感じています。

Q 生学：よりよい紙面づくりに必要なポイントや注意点を教えてください！

広報：情報を絞り、文章は簡潔・簡単に、視覚に訴えることが大切です。「せっかく載せるのだから」と、あれもこれもと情報を入れすぎると、かえって何が大事な情報なのか分からなくなってしまいます。また、市役所内では伝わる言葉でも一般的には分かりにくい言葉も多くあります。なるべく専門用語や難しい言葉は使わず、誰もが理解できる言葉を使い、文章も短くする意識が必要です。さらに、文章よりも図や表、グラフなどを使うと“ぱっと見”で情報が伝わりやすく効果的です。

Q 生学：掲載する写真をうまく撮影するコツやポイントはありますか？

広報：とにかくたくさん撮る！！ことです。1回で良い写真を撮るのは難しいですが、何枚も撮れば数枚は良いものが撮れているはずですよ。私たちも大きなイベント時や表紙・巻頭特集に使う写真の撮影は、数百枚に及ぶこともあります。その際は、なるべく同じような写真ばかりにならないよう、撮影する場面や方向、角度などを工夫しています。

今はスマホでも十分に綺麗な写真が撮れますし、SNSなどでも上手な写真をたくさん見ることができるので、参考にしながら気軽に撮影してみるとよいと思います。

Q 生学：広報担当者が考える「広報」ってどういうことですか？

広報：市民や事業者等の皆さんとつながるコミュニケーションの一種だと考えています。これからは地域の皆さんとの協働・連携がより求められ、お互いを理解することが大切になると思います。そのため、市役所から一方的に情報を発信するという考えではなく、受け取り手を意識した情報発信が必要です。これは広報紙やチラシ、ホームページ・SNSでの情報発信に限らず、通知文書や窓口での対応においても大切な考えだと思います。広報担当だけでなく、職員ひとりひとりが「広報」を担っているという意識を持つことが重要だと考えています。



Q 生学：レイアウトで気を付けていることはどういう点ですか？

広報： 巻頭特集では、余白を作る、写真を効果的に使う、ジャンプ率を利用することを意識しています。文字がぎちぎちに詰まっているより、ページ全体にある程度余白がある方が見やすくなりますし、写真は読者の目を引くので効果的にメッセージを伝えることができます。

ジャンプ率というのは、本文と見出しの大きさの比率のことで、この比率をうまく使うことでメリハリある記事を作ることができます。例えば、新聞の紙面は記事の内容に応じて見出しの大きさを変えているため読みやすく、流し読みでもおおよその内容を読み取れるように工夫されています。これらを紙面全体に広げて、全ページ読みやすくするのが目標です。

Q 生学：今後、紙面のリニューアルを考えているそうですが、どういう風になりますか？

広報： 表紙のデザインはもちろん、各情報の掲載方法や紙面のレイアウトなど全体を通して改善を図る予定です。

また、市内で活躍する人を紹介するコーナーの新設や巻頭特集のさらなる充実を図り、広報などをきっかけに地域に愛着がわくような構成を考えています。名取は若い世代が多いまちでもあるので、若い人たちも手取りやすく、「今月の広報見た？」といった会話が家庭や地域で生まれる広報紙を目指したいです。

<広報作成の流れ>

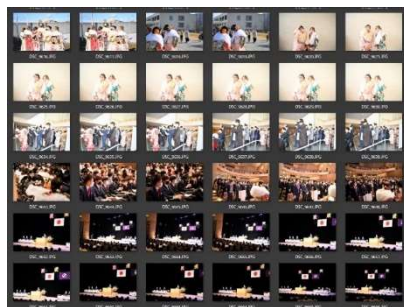


①いざ！取材現場へ！

②掲載する写真を厳選。紙面の都合上、泣く泣く掲載を断念するものも多数あり。



④表紙は広報紙の顔。選定には時間をかけます。



③校正作業の様子。



国際交流・広報係より

「広報」は英語で「PR=Public Relations」です。Relations（関係）とあるように、地域の“関係づくり”が大きな役割です。「広報なとり」が名取に住む人、名取で活動する人と良好な関係を築き、ともに「愛されるふるさと」を創るきっかけの1つになれば幸いです。

<参考>

広報の配布戸数（R4年1月末現在）：約32,000件

生涯学習課より

3月19日（土）に、「なとりまなびフェスティバル」を開催します。お陰様で整理券の配布は終了となりました。

皆様のご来場をお待ちしております。

《編集・発行》

生涯学習推進本部

事務局 生涯学習課 724-7173